



立志 鍛錬 協調

令和2年2月7日号

立三申

立川市立立川第三中学校  
Tachikawa Daisan J.H. School

だより

## 主権者教育

校長 山口 真一

2月2日、アミノバイタルフィールドにおいて、「第11回中学生東京駅伝大会」が開催されました。本校からは、平金 颯人君、増田 有沙さんが代表選手となり、選手の皆さんの頑張りにより女子35位、男子41位、と健闘しました。数ヶ月にわたる選手の皆さんの努力に敬意を表し、感謝します。

さて、2020年がスタートして、1ヶ月が経ちました。各地で成人式があり、今年には新成人が122万人誕生しました。成人年齢は2022年4月1日から18歳に引き下げられることが法律によって決まっています。選挙権は2016年に18歳に引き下げられていますが、選挙の投票率が年々減少しており、最近の選挙では50%を下回ることも珍しくありません。特に若者の投票率が低く、20歳代の投票率は60歳代の3分の1であり、大きな問題となっています。現在の日本は、諸外国と比べても、豊かで安全な社会となっています。しかし、日本の教育、福祉、社会保障等の費用の多くが国債などでまかなわれています。つまり、国の借金です。このままでは若者や次の世代は、負担ばかり負わされることとなります。政治経済に関心を持ち、働くことの意義や税や社会保険といった負担を自分のこととして理解し、国民の権利や義務など国民生活を営むうえで必要な知識をしっかりと身に付ける必要があります。

立川市には、こうした知識を学んだり経験する様々な取組があります。その一つが2月8日（土）に開催される「市民と市議会議員の意見交換会」です。市民の声を聴いて、市政に反映させることを目的としています。今回の中・高校生の部のテーマは「立川の未来」です。本校では主張作文や人権作文等の取組で、地域や社会への関心が高まり、しっかりとした考えをもった生徒が増えています。中学生の視点で発言し、それが市政に反映されれば、若者にとってもより住みやすい街になると思います。自分の表現力や発言力を高めるためにも、こういう機会を積極的に活用してほしいと思います。